

筑波大学附属坂戸高等学校 第26回総合学科研究大会のご案内

寒冷の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、下記の通り第26回総合学科研究大会を開催いたします。2年間オンライン実施でしたが、生徒の自然な姿をご覧いただき、充実したディスカッションを行うために、やはり、ご来校いただき、直接お話ししたいと考え、今年度は、事前のオンライン配信と、対面の公開を組み合わせる形で行います。

本校では1994年度に総合科学科を開設して以来、四半世紀に渡って、探究を軸とする教育課程の開発を行っております。2014年度から5年間、文部科学省のSGH(スーパーグローバルハイスクール)指定校として、また、2019年度からはWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業の拠点校として、総合学科で培ってきた探究学習や、海外を含む外部連携の蓄積を活かし、グローバル人材の育成に努めてまいりました。

新教育課程では、普通教科にも探究やジェネリックスキル育成の視点を取り入れることになり、従来の教育観が大きく問い直されています。本校では今年、カリキュラムマネジメントを進めるために、校内研修を通じて、これまでの探究活動の目標、活動および評価の在り方を今一度振り返り、共有する過程を進めております。また、生徒の一次体験となる校外での研修旅行、国内外の他校生との交流機会となるシンポジウムなども、社会情勢を見ながら再開し、対面、オンライン双方の利点を活かして進めております。

今年の研究大会には、東京大学大学院教授、本田由紀先生から基調講演をいただけることになりました。学校教育と社会との接続について研究を進められ、「水平的多様性」の重要性を説いておられます。これはまさしく本校の目指すところであり、日本の教育や本校の進むべき道を示していただけることに期待しております。

研究大会では、全国の先生方に本校のキャリアコア科目の現状をご報告し、ご指導をいただくとともに、先生方が日々、生徒の将来のために工夫されていることからご示唆をいただきたいと考えております。お忙しいところ恐縮ですが、是非、埼玉坂戸の地まで足をお運びいただけましたら幸いに存じます。

記

1. 日 時 2023年2月11日(土・祝) 9:00~16:50
2. 名 称 第26回総合学科研究大会
3. 主 題 「総合学科における探究学習の現在地 ~活動と評価の工夫~」
4. 対 象 全国の総合学科校ならびに WWL 事業拠点校・共同実施校・連携校、SGH ネットワーク参加校の教員、教育関係者、SDGs 関連団体、IB 認定校・IB 候補校・IB 関心校および IB に関心をお持ちの高等学校教員ならびに教育関係諸機関
5. 講 演 演題:「日本の高校教育の課題と探究学習の可能性」(仮)
講師: 本田由紀氏 東京大学大学院教育学研究科教授/日本学術会議連携会員
博士(教育学)。日本労働研究機構研究員、東京大学社会科学研究所助教授等を経て、2008年より現職。専門は教育社会学。著書多数。『若者と仕事』『多元化する「能力」と日本社会』『軋む社会』『教育の職業的意義』『もじれる社会』『教育は何を評価してきたのか』『「日本」ってどんな国?』『「ニート」って言うな!』(共著)ほか。
6. 会 場 筑波大学附属坂戸高等学校 埼玉県坂戸市千代田1-24-1
7. 参加申込 期間 2022年12月23日(金)~2月4日(土)
方法:下記 URL よりお申し込みください。
申し込みフォーム <https://forms.office.com/r/cYjW63WVqW>
※本校ホームページにも上記の申し込みフォームの記載がございます。
<http://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp/>
8. 参加費 2,000 円



9. お願い

- ・本研究大会は一日開催のため、授業公開動画、一部生徒の発表動画を事前に YouTube にて配信いたします。できるだけご覧いただいた上で当日ご参加ください。
- ・下記プログラムは、対面での開催となります。当日参加が叶わない方で資料をご希望の方には、実費(1,000円)にて、資料集をお送り致します。
- ・対面でご参加いただく場合は、マスク着用の上、感染対策にご協力をお願い致します。発熱等の症状がある場合には、参加をお控えください。

10. 日程

主題「総合学科における探究学習の現在地 ～活動と評価の工夫～」

	プログラム
9:00-9:30	開会行事(校長挨拶・本校の研究活動・SEA-Teacherプログラムについて)
9:30-12:50	生徒による探究活動の発表 9:30～ 9:45 3年間の探究活動 9:45～10:15 1年次「産業社会と人間」 10:25～11:10 2年次「T-GAP (つくさか・グローバルアクション・プログラム)」 11:20～12:50 3年次「卒業研究」および講評
昼休み	★IB生Exhibition
13:50-15:10	基調講演「日本の高校教育の課題と探究学習の可能性」 講師:本田由紀氏
諸連絡・案内	
15:20-16:50	分科会 ※1つをお選びください。 A:探究学習を通じた自己理解とキャリア形成 (「産業社会と人間」の実践) B:探究学習を通じた社会課題への働きかけ (総合的探究の時間と卒業研究) C:一次体験を通じたグローバル人材の育成 D:IBDP(国際バカロレア)の運用について E: 海外との教育提携による国際教育:海外からの実習生受け入れ

【分科会概要】

A. 「探究学習を通じた自己理解とキャリア形成 (「産業社会と人間」の実践)」

今年度の「産業社会と人間」では、自己認識を深め将来像を表現できるようになるために、“WILL 発掘ワークショップ”を実施してきました。午前中の生徒発表では、その成果を発表します。本分科会では、同ワークショップの生みの親でもある大川陽介氏(株式会社ローンディール・一般社団法人クリエイティブ思考協会)をお招きして(予定)、枠組みや基本的な考えをご紹介しますとともに、「産業社会と人間」における位置づけや評価について報告致します。

B. 「探究学習を通じた社会課題への働きかけ (総合的探究の時間と卒業研究)」

学校の教育活動全体が探究活動を主軸として構成されている点は本校の大きな特色です。本校の「T-GAP(つくさか・グローバルアクション・プログラム)」「卒業研究」におけるカリキュラム構成や課題、探究活動の実践事例を報告致します。また、「総合的な探究の時間」や「課題研究」の指導や評価方法に関する質問・意見等を共有、議論致します。

C. 「一次体験を通じたグローバル人材の育成」

本校では2年次に国内4カ所に分かれ、地域の社会課題への取組みを学びます。また「総合地球科学入門」として地学実習および海外からの移住者との交流、「オーストラリア研修」では海外大学進学を視野にフィールドトリップを実施しています。ポストコロナにおける「一次体験を通じたグローバル人材の育成」をテーマに課題の共有を行います。

D. 「IBDP(国際バカロレア)の運用について」

今年度Ⅲ期生が最終試験を終えました。国際バカロレアには厳格な評価が組み込まれていますが、その運用は学校ごとに委ねられています。本校ではこれまでの総合学科としての探究活動の実践を生かし、実態に合わせたIBDP運用を行ってきました。IBDP運用に関する本校の取り組みを報告し、IBDP運用に関する情報を共有したいと思います。

E. 「海外との教育提携による国際教育:海外からの実習生受け入れ」

アセアン地域では、国を超えて大学生を派遣しあい教育実習を行うプログラムが実践されています。本分科会ではタイ、フィリピン、インドネシアの高校教員および実習生の皆さんから、「グローバル人材を育成できる教員の育成」につながる国際教育実習について報告していただき(対面)、日本での実践可能性について議論したいと思います。

11. 研究大会に関するお問い合わせは、こちらまでお願い致します。

筑波大学附属坂戸高等学校 〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田 1-24-1
TEL 049-281-1541(代表)

研究部 北野 啓子 TEL:049-282-7212(本校外国語科直通)
E-mail: research@sakado-s.tsukuba.ac.jp